

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870500246		
法人名	社会福祉法人 聖隷会		
事業所名	グループホーム センチュリーの里 ユニット名(ゆり)		
所在地	石岡市三村6284-7		
自己評価作成日	平成30年12月21日	評価結果市町村受理日	平成 31 年 4 月 16 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kijhon=true&ji_gvosvoCd=0870500246-00&PrefCd=08&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内
訪問調査日	平成31年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の中、建物の周りには季節毎の花が咲き、四季折々の風景を眺めながら楽しく散歩が出来る施設です。
利用者、利用者家族、職員を含めて家族として生活する事で個人が安心して生活出来るよう職員一同努めております。月に一度、お楽しみ献立を取り入れたり、楽しめる時間と空間を提供出来るよう心掛けております。
さらに地域との繋がりを大切にし、行事等があれば積極的に足を運んで参加しております。施設の理念に掲げている「人権の尊重・その人らしい在り方を目指します」が実現出来るよう心掛けて支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は林と畑に囲まれ、広い敷地を有しているため利用者は雨以外は安心して散歩している。玄関スペースには正面にお雛様の段飾りなど季節毎に飾りを変えたり、公衆電話を設置して利用者が今までの暮らしと変わらない生活ができる工夫をしている。玄関横に談話室を設け、インフルエンザ等感染症が流行する時期は来訪者は居間や居室に入ることを制限し、利用者の健康管理に配慮している。同じ敷地内に隣接している特別養護老人ホームと行事を合同で開催したり、芸能ボランティアの来訪時に一緒に楽しむほか、防災訓練も合同で行うため安心にもつながっている。同法人の保育園が4園有るため園児の訪問が多いのと、近くの小学校の運動会には来賓席に招待されるなど、子供との触れ合いも利用者の楽しみとなっている。管理者と職員は利用者本位のケアに努め、利用者が笑顔で穏やかに過ごせる様に支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念、目標を掲示し、その実践に取り組んでいます。	同法人のグループホーム共通の理念の他、独自の理念も立てており、廊下や事務室に掲示したり、職員会議時に唱和し、共有している。利用者の支援に迷った時は理念を思い出し、利用者一人ひとりに寄り添ったケアができるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域近隣の小学校からの催事招待を受けて参加しています。 特養と合同の敬老祝賀会・誕生会等で余興を招き交流を図っています。	職員は地域の清掃活動に参加するとともに、利用者は散歩の時にゴミ拾いをするなどの協力をしている。小学校の運動会に参加し、来賓席でお茶をいただきながら楽しんだり、事業所で開催する「敬老会」や「花火大会」に地元の人達を招待している。小学校の福祉体験学習や実習等の受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年3回広報誌を作成し地域の方々に理解を深める機会とし、いつでも気軽に相談出来る環境作りをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、事業所の現状を報告し、委員の皆様から意見を頂く事で今後のサービス向上を図っております。	家族等の代表や利用者、市職員、民生委員等が参加し、定期的に開催している。事業所からの報告や委員からの意見を聴くなどして運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の連絡協議会に加盟し研修会に参加出来るよう心掛けています。市職員を運営推進会議に招き、常に意見をいただきながらサービスの向上に活かしています。	地域密着型連絡協議会に加盟し、年4回の研修会に出席している。生活保護担当の職員が来訪した際や電話で相談しているほか、運営推進会議時にも色々と相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で身体拘束への弊害を理解し、拘束しないサービスに努めています。	月1回、系列事業所全体で「身体拘束適正委員会」が開催され、職員が参加している。また、職員はビデオでの研修を年2回受け、常に話し合いを行うことで、身体拘束を行わないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待防止についての勉強会を行い情報共有に努めています。 また事業所理念に「人権の尊重」を掲げており、日頃から虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市役所から情報を収集したり、管理者で研修会を行い権利等が守られるべき必要性を学び、活用出来るよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には読み合わせをしています。説明内容を理解・了承いただいた上で契約しています。 法律改正がある場合は事前に説明の案内を書面で送付しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、些細な事でも迅速に対応し解決へ向けて行動出来るよう努めています。	家族等の来訪時に意見や要望を聴くようにしているとともに、玄関に意見箱を設置している。重要事項説明書に、行政などの外部相談窓口を掲載している。家族等から出た意見には迅速に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議等で意見交換し、問題に対して早い対応と改善に努めています。	職員は日頃から管理者に話をしてくる。職員会議でも意見等を聴いている。通路の側溝に車いすのタイヤがはまり易く危険であるとの意見に対応したり、街灯が暗いとの意見にも周囲の木を切ってもらうなどして、迅速に対応した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の資質向上に役立つ研修を重ね、やる気と向上心、資格の取得への協力体制を提供出来るよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外部の研修に参加して各職員の個々でスキルアップに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会の研修に参加して交流を持ち、新しい知識や技術を取り入れ、サービスの向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前事前調査を行い、本人が安心して生活出来るようひとつずつ説明します。 入所後は利用者の不安や不満の解消に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学をしていただき不明点があれば説明を行い家族の不安を除去する事に努めています。 小さな事柄でも相談して頂けるよう面会時には声掛けをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学時や入所前に「ここで良いのか?」、「今何を必要としているのか?」を支援見極め、「他へつなぐ」対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に生活する中で不安や悩みを聞いたり、励まし合ったりと信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族間での連絡を通してご家族にも可能な限りの協力を要請しながら、共に支えていく関係性を築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設通所に来られている顔馴染みの方に会いに行ったり、ドライブに連れ出し懐かしい場所を訪問したりと今までの繋がりを維持出来るよう努めています。	入居時に利用者や家族等から情報を得ている。申し送りノートを活用して、利用者のこれまでの生活歴や馴染みの人、場所などを把握し、これまでの馴染みの関係が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや体操、散歩を通じて、時々職員が間に入って手助けしてお互いが関わり合えるよう留意しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所となった方にも様子を伺いに訪問を行っています。また相談があれば対応を検討します。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を聞き本人と家族の希望に沿ったケアに努めています。	日常の関わりや会話から、希望や意向を把握し、本人の意向を反映して、日々のケアや行事に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査の情報や日々の生活により得た事柄を把握してケアに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人にペースで出来る事を把握して支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からのヒアリング、本人からの希望、楽しみや趣味を把握し本人出来る事をレクリエーションとして提供するケアを心掛けています。	家族等や利用者の意向を基に、職員間で話し合いを行って毎月モニタリングを行い、基本1年で見直している。家族等には来訪した際に説明して確認してもらっている。利用者の状況に変化があった場合には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別に記録し情報を共有します。また日中帯と夜間帯とで記録の色分けをし記入の工夫をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合わせ状況に応じたケアを実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の場において民生委員や外部機関の意見を伺い支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の医療機関への受診を支援しています。病状により家族と相談しながら受診しています。	歯科月4回、眼科2ヶ月に1回の訪問診療がある。血圧手帳を持参し、身体状況は口頭で伝えている。受診結果は家族へは毎回電話、職員は申し送りノートや個人記録で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日利用者の健康状態を観察し、変化がみられる時は併設の特養看護師に相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時には情報交換を病院側と密にして良好な関係性を築いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人への最善策を家族と話し合っています。	看取りに関する指針と同意書、終末期ケア承諾書があり、家族等に説明して同意を得ている。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと段階的な合意を行なっている。マニュアルがあり、職員は外部研修や内部研修に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に心肺蘇生法、AED取扱い、止血法等の社内講習でレクチャーを受け実践力を養っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、併設の特養と合同で防災訓練、消火訓練、夜間想定での避難訓練を行っています。	夜間想定を含む避難訓練を年2回、併設の特別養護老人ホームと合同で行っている。訓練後は反省会を行い、課題について話し合っている。避難の際には消防署のアドバイスを活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各個人のプライバシーに配慮し、傷付けなような声掛けをしています。	入浴時や排泄時のプライバシーには細心の配慮をしている。各々の生活歴を考慮し、会話をするようにしている。新規採用者には、接遇マナーの研修を行っている。肖像権に関する同意書はあるが、広報誌に関してのみとなっている。	肖像権に関して広報誌の同意は得ているが、事業所内の掲示やホームページの掲載に関しての同意は取れていないので、これらについても同意を得ることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自身で決められるように説明し支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きな事、やりたい事を聞き、毎日が生き生きと楽しくいただけるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて利用者の好みに合ったお洒落が出来るよう家族にも協力していただきながら支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から見える場所にメニューを掲示しています。毎日の食事が楽しみなものになるよう努めています。また月に一度お楽しみ献立を行い、要望に沿ってメニューを考えています。	併設の特養の栄養士が献立を決めて、夏には自家菜園の食材も使用し、職員が調理している。利用者は、野菜の下ごしらえや食器拭きなどできる事を行っている。おせちや行事食の他、お楽しみ会として年10回、利用者の希望を取り入れたメニューの日がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によりバランスの取れた献立になっております。毎食時に摂取量や水分量を個々に記録して把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けと支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別のパターンを把握し、声掛けを積極的にし、失禁等を減らす支援、自立に向けた支援をしています。	排泄チェック表や利用者の様子などから、その人に合った声かけをし誘導している。オムツだった利用者が入居後の支援で布パンツになり、自信が出たようで、表情も明るくなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、水分摂取を促したり散歩、体操等体を動かすことで便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に合わせて入浴していただいています。2日に1回の方、毎日の方とそれぞれ対応しています。	週3回、午後からを基本に支援しているが、利用者の希望に沿っていつでも可能となっている。ゆず湯や菖蒲湯で季節を味わってもらっている。入浴を拒む利用者には職員や時間を変更したり、入浴剤を使用するなどして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて安眠・休息出来るよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は確認し薬性はファイリングしてすぐに確認出来るようにしています。服薬時には氏名、日付、機会の確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や希望に合わせてその人らしい役割を担っていただくことで気分転換を図って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好天の日は散歩に出掛け気分転換を図っています。施設で計画し外出行事の他、家族との外出も積極的に支援しています。	雨の日以外は、広い敷地内で散歩を楽しんだり、近所の店に買い物に出かけたりしている。年間行事計画を立て、花見や水郷公園へ出かけている。つくば病院で開催された芸術祭に作品を出品し、それを見に行ったりもした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望に沿ってお金を所持し、電話や買物の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持や公衆電話を使用していたいです。 また手紙はお預かりして投函しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室・トイレには誘導する貼紙をして案内しています。居室前には表札の貼紙をし部屋が特定出来る様にしています。 リビングに生花を置き季節感を演出し、自身の部屋の壁や棚には好みの絵や作品を飾っています。	居間兼食堂は内装に木を多く取り入れており、ぬくもりが感じられる。事業所全体に掃除が行き届き清潔が保たれ、温度や湿度も管理されている。玄関ホールには観葉植物が飾られ、面談スペースや畳のベンチが設置されており、いつでも面会者と団らんできるようになっている。また、季節に合わせた行事の飾り物を飾り(今の時期はひな壇)、季節を感じ取れるようになっている。廊下には、利用者の習字、行事の写真等が飾られ、事業所での暮らしが分かるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも談話コーナーが設置され、気の合う者同士でお過ごしいただけるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの深い物を持ち込んでいただき、自宅と同じように心地良く過ごしていただけるよう支援しています。	エアコンやベッド、整理筆筒が備え付けられている。時計や写真、自作の品物、100歳のお祝いの額など、各々が使い慣れたものを持ち込んでもらい、居心地の良い部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの建物内で手摺を伝い歩行に支障が無いよう常に整理し、安全に暮らせる環境を提供しています。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム センチュリーの里

作成日 平成 31 年 4 月 18 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	個人情報に関する同意書が肖像権に関する同意はあるが、広報誌に関してのみとなっている	同意書を見直し、作成する	肖像権に関して事業所内の掲示やホームページの掲載に関しての同意事項も個別にし、家族が選択して同意出来るようにする	3 ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。